

旧赤星邸オープンガーデン実施結果（速報）

1 前提：保存・復元、利活用に関する考え方（有識者会議報告書より）

- ① 旧赤星邸のオリジナル部分は原則として保存する。
- ② アントニン・レーモンドの設計意図である建物と庭、部屋同士のつながりを重視して竣工時の開口部や間取りなどの復元を目指す。
- ③ 旧赤星邸に耐震改修等する場合もオリジナルを損なわないよう最小限とする。
- ④ 増築部分は活用の想定や庭と中からの景観を配慮し解体や減築も含めた検討を行ったうえで改修等を行う。
- ⑤ 多くの世代に魅力を伝える仕組みとして、住環境や歴史的な文化財に配慮しながら日常的に使える工夫をする。
- ⑥ 歴史等の展示は詳細な調査を行ったうえで、今後の利用の中で体験できるような「生きた」展示となるよう見え方も含めて検討する。
- ⑦ 樹木診断の結果を踏まえつつ中央の広がりと周りに大きな樹木があるというフレームを重視して庭園整備を行う。

2 実施目的

- ・良好な住居環境を害する恐れのない範囲や程度を見定め、利活用の可能性を探る。
- ・適切な管理運営方法の検証と市民団体等運営の担い手の発掘

3 実施内容

社会実験と一般公開を1週間同時期に実施

(1)日時

10月24日（木）～30日（水）10：00～16：00 ※24～27日は夜間イベントも実施

(2)社会実験

- ・令和5年度に実施した社会実験に引き続き実施するもの（2か年事業の2年目）
- ・社会実験の実施主体として、①事業者 ②団体・グループ ③市民企画スタッフに分けて公募した。提出された企画書より、活動する日程・場所を事務局で調整のうえ実施した。

(3)一般公開

- ・社会実験期間中は一般公開も併せて実施し、来場者数の向上など相乗効果を図った。

4 参加事業者数

事業者10者、団体・グループ7者、市民企画6名

5 本格活用に向け参加事業者から寄せられた意見

- ・団体・グループとして非営利のツアーを実施したが、資料印刷などの費用を今回負担した。市からの金銭的な支援は必要だが、資料販売など市民団体で稼ぐ活用があっても良いのではないか。

- ・プロジェクションマッピングと演劇を組み合わせる事例は海外である。旧赤星邸でもプロジェクションマッピングを活用しながら、赤星鉄馬など歴史を演劇で表現すれば子ども世代でも楽しめるのではないか。

6 実施結果を踏まえた利活用における方向性と課題 [現時点の事務局の考え]

- ・単一目的、単一の使い方ではなく、様々な主体（事業者・団体・市民）による多様な活動が可能な施設とする。
- ・企画段階から利活用側の主体性を重視し、利活用法を行政や運営事業者が決め過ぎない。
- ・施設運営においては、様々な主体のとりまとめをしながら建物と公園を一体的に利活用する運営事業者の存在が重要である。ただし、建物と庭の維持管理も担える運営事業者がいるかは課題であるため、サウンディング調査結果も踏まえながら維持管理は別発注方式とすることも選択肢にする。

7 その他

アンケート調査結果や音環境調査結果については、第3回委員会にて報告予定